

六、足教組は、いのちを育む ことを第一義的な責務として共有する教職員の組織です。学校は、子ども・父母・教職員で成り立っています。子どもは学校の主人公であり、父母も教職員も教育の主体です。

足教組はこの立場に立ち、結成以来五〇年以上の歴史の中で、学校給食の実現、就学援助の充実、スシ詰め教室の解消、高校増設運動、非行の克服、学校給食民間委託反対、教育条件の充実、人権を守る立場に立って運動を進めてきました。今も「子どもを真ん中に、笑顔かがやく学校づくり」実現のために奮闘しています。

しかし、現在進行中の「上からの教育改革」は、子どもや父母や教職員の願いを踏みにじり、子ども・父母・教職員丸ごと、いっそうの競争と差別・選別の体制の中に組み入れようとするものです。それは「管理運営規則改悪による上意下達の学校運営」「教職員の協力体制を破壊する賃金への成績率導入」など行政の学校への権力的な統制にも現れています。

そしていま、日本の現状は底なしの不況、経済危機、根深い国民不在の金権腐敗政治、退廃的な文化の氾濫など、子どもたちの人間としての成長発達にとってきわめて困難な問題がふれています。

教育の面でも学習指導要領によって数多く生み出される授業についていけない子、増え続ける登校拒否・不登校、後を絶たないいじめ、「新たな荒れ」、神戸の連続児童殺害・黒磯の女教師殺傷など相次ぐ異常な事件等々否定的な現象が続出しています。

このようなとき、何よりも大切なことは、父母も教職員も協力して「子どものあるがままの姿」を受け止め、子どもの苦悩が閉ざされず、心が開くように声をかけ、いたわり、時には優しく、時には厳しく励まし、いらついている中に人間としてのまっとうな願いを読みとること、子どもたちが「個人の価値」の大切さをひとつひとつ自覚し、話すことができ、行動できるように育てていくことではないでしょうか。

しかし、こうした厳しい状況でも子どもたちは、その輝きを失わず、語り、行動し始め、学校でも家庭でも優しさをやすばらしさをいっばい発揮しています。さらに子どもたちは、もっと広くもっとのびのびと、友達とともに成長できる道を保障して欲しいと願っています。

この願いが通じる教育の実現のために私たち教職員が、父母・地域の方々々と力を合わせていこうではありませんか。足教組はその先頭に立って運動していくことを改めて決意するものです。